

令和4年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①豊かな心をはぐくむ教育の推進

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 友達への思いやり	3 道徳・心の教育の充実
<p>学校は、一人一人の子どもの大切にされた指導や対応ができていますか。</p> <p>保護者と児童、教職員いずれも肯定的意見が95%を超えている。学校生活の中で友達と仲良くしていこうという意識が高まってきていることが考えられる。今後も授業や日頃の取り組みを通して、自分だけではなく周りの友達とも仲良くしていこうとする意識を高めていきたい。</p>	<p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p> <p>保護者と児童、教職員いずれも肯定的意見が90%を超えている。特に児童のできているという数値が上がっており、アンケートや日頃の様子から、すぐに対応していったことで効果が上がったと考えられる。今後も一人一人の指導や対応の方法などを一層考えていきたい。</p>	<p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）</p> <p>保護者は肯定的な評価が97%で、教職員は肯定的な評価が昨年度より増え100%になった。毎週の道徳科の授業や日常の指導を学年で検討し共有してきた成果と考える。道徳科では「なぜ大切なのか」を議論し語り合うことを大切にすることが必要である。今後も全教育活動では、心を育む教育の充実に一層励みたい。</p>

②確かな学力を育む教育の推進

4 意欲的な学習態度	5 授業力向上	6 タブレット活用
<p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p> <p>保護者と児童、教職員いずれも肯定的な評価が90%以上となっている。特に、保護者は96%にもおよび、家庭内でも意欲的に学びに向かう様子がうかがえる。一方、児童の中に、否定的な回答もみられることから、継続して授業の改善に取り組む必要がある。</p>	<p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p> <p>保護者と児童、職員いずれも肯定的な評価が、90%以上となり、昨年度よりもやや高い傾向にある。各学級での日々の授業の工夫・改善の成果を子どもに実感できるようにしている。全国大会への取り組みの成果も現れているように思われる。今後とも授業力の向上に努めていく必要がある。</p>	<p>子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。</p> <p>保護者と児童、教職員のいずれも肯定的な評価が90%以上となっている。一方、児童の中には、否定的な回答もみられる。もっとタブレットを活用して学習したいと思っている児童いると考えられる。タブレットの活用については、効果的に使う方法やルールを守って使うことなどの指導に取り組む必要がある。</p>

③健やかな体を育む教育の推進

7 健康づくり	8 児童生徒理解	9 いじめや問題への対応
<p>子どもは、好き嫌いなく食事をして適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。</p> <p>「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合は、三者とも約9割を占めるが、健康的な生活習慣については個人差が大きい。特に運動の二極化や体力の低下、偏食やネット使用時間の増加等の課題解決に向けては「すこやか会」を中心に、家庭との連携をさらに深めていきたい。</p>	<p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。</p> <p>「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が、保護者と児童、教職員ともに9割を超えており、きめ細かな対応が結果につながっていると思う。しかし、そうは思わないとの回答もあることから、今後も引き続き、丁寧な児童理解の視点が求められる。</p>	<p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p> <p>学校では、学校生活での教師の観察やアンケートなど、子どもを細やかに把握することで、迅速な対応を心掛けてきた。保護者の評価とのズレについては、学校での聞き取りや対応後の家庭連絡、子どもや保護者に納得いただけるような対応を続けていきたい。</p>

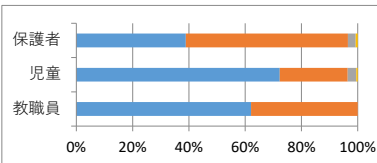
④特別支援教育の推進

10 学校の支援体制	11 共生社会を担う人材の育成
<p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p> <p>教職員の「そう思う」が増え、「どちらかといえばそう思う」を合わせると、100%に達している。保護者も90%を超えていた。今後、更に保護者や地域の理解を深めるため、継続した啓発に努めていくことが大切と考える。</p>	<p>「交流及び共同学習」等の実施は、相互理解の促進につながっていると思いますか。</p> <p>教職員の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせると、100%に達している。児童では、「交流及び共同学習」等の経験量の違いが、理解のばらつきに影響していると思われる。どの学年においても理解を深めることが、保護者や地域の理解にもつながると考える。</p>

①子どもたちの身近な安全対策の充実

12 安全と事故防止

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。

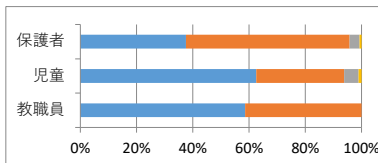


教職員は肯定的評価が100%と昨年より上がっており、職員間での連携がとれ、意識の差なく共通指導・共通実践を行うことができた結果と考える。また、教職員の意識の高さが、保護者・児童にも伝わっていると言える。今後も、職員間での呼びかけや各種委員会を効率よく行い、安全教育を充実させていきたい。

②最適な学習環境の整備

13 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

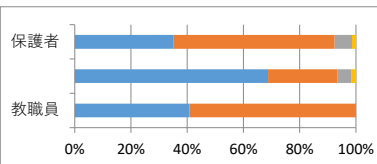


保護者の「4そう思う」「3どちらかといえばそう思う」と答えた割合は高いが前年度と比べると多少落ち込んでいる。施設や設備は年々劣化していくため、毎月の安全点検で危険箇所の見落としに注意し、今後も迅速な対応に努める。

③家庭・地域社会との連携強化

14 教育方針・目標の理解

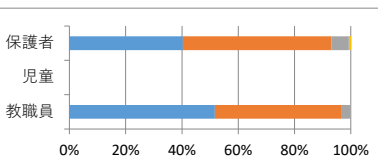
学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



保護者も児童も93%が「4そう思う」「3どちらかといえばそう思う」と回答した。教職員においては100%である。保護者に学校だよりなどで発信し、教職員が児童へ「目指す子ども像」を意識し教育活動を進めてきた成果である。

15 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

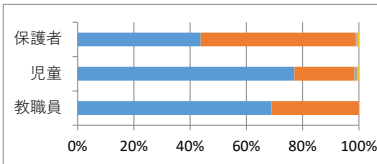


保護者と教職員の93%が「4そう思う」「3どちらかといえばそう思う」と回答した。学校学級だよりや学校安心メール、ホームページで教育活動等について発信を続けている表れと考える。また、児童の登下校の見守りは、保護者や地域の交通安全協会等の支援があり、大きな事故は起こらなかった。

④本校の教育

16 生命を大切に教育の充実

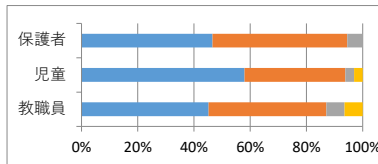
学校は生命を大切に子どもを育成を進めていると思いますか。



保護者も児童も98%以上が肯定的な評価をしている。教職員においては100%である。道徳教育や健康教育、集会での校長講話などで「生命」を大切に教育の充実を図ってきた成果である。今後も学校だよりや保健だよりなどで、取り組みを紹介していきたい。

17 学び合いのある授業

子どもたちは、よく考え、友達と意見を交流したり、教えあったりすることができていると思いますか。



本年度も、新型コロナウイルス感染症感染防止のため学習形態を変えづらいこともあったが、保護者、児童の数値も肯定的評価が90%を超えている。昨年度に続き、各学級における授業の工夫や安心して語り合う学級風土が広がっていると考えられる。特に3年生以上の学年では論じる形での学び合いを行っている。今後も多様な学習形態の活用等、工夫改善を行うことで更なる向上を目指していきたい。